



国指定天然記念物「臥龍桜」

勉強する寺子屋のような使い方もしたいです。地区のコミュニティの輪を広げていく大事なサロンです。
市長 気軽に集える場所の提供。大事なことです。

―一之宮では、復興のシンボルとして臥龍桜の苗木を女川に贈られましたか。

田邊会長 ええ、「まち協」として桜をテーマに設立記念事業を行ったうちの一つです。幾度の危機を乗り越え復活した臥龍桜に、東日本大震災からの復興の願いを込めて、宮城県女川町に昨年苗木を贈りました。そして今年は町民から寄せられ

た義援金や町の名産、地元の画家である山腰曠さんが描いた臥龍桜を中学生とともに被災地復興支援ツアーとして出かけて現地にしてお渡ししました。女川も桜の町でしたが震災で大部分が流出しましたので、復興のシンボルになれば嬉しいのです。これを縁に息の長い交流にしたいです。

市長 復活してほしいと一之宮のみなさんの願いが詰まった臥龍桜。単なる桜のつながりだけじゃないんですね。

今後の動き

―では、両会長から今後の計画をお聞かせください。

門前会長 今年も地域住民のみなさんとの懇談を充実させたいです。特に今年は地区として防災と福祉をメインテーマに設定しましたので、地区として何ができるのか、どういった制度設計にすべきかをいろいろな場で話し合っていきます。

もう一点は、今年は花里小学校の設立30周年でありますし、まち協としても実質スタートの年です。で、秋には「花里の日」として祭りをしたいです。地区のみなさんにたくさん集まってもらい、楽しい一日にしたいです。その中で、協働のま

ちづくりを地区のみなさんに知っていただく、考えていただく場として準備したいと思い、現在は具体的な内容を詰めています。

田邊会長 私は4つあります。まずは若者を対象としたチームを立ち上げ、若年層の参加を促すことと将来の地区リーダーを育てていきたいです。次は子どもに歴史や伝統、文化をきちんと継承していくことです。もう一つは公的施設の活用です。現在「まち協」では一

之宮公民館と飛驒位山文化交流館を指定管理者として運営していますが、花里のようにみなさんが気軽に使っていただけるサロンの活用も考えたいです。最後は被災地復興ですが、大げさなことはともかく、細く長く続けていきたいですね。女川に贈った臥龍桜が満開の花を咲かせた際は、一之宮の方と女川の方と一緒に花見をするのが夢ですね。

―最後に今回の番組を振り返られて一言お願いします。

市長 花里も一之宮もモデル地区として大変ご苦労されていました。モデル地区として最初は何をやっ



いのか分からなく、難しかったことと思います。しかしながら、取り組みを進めて積み重ねていった結果、地区のみなさんに浸透していき、地区のみなさんの参加が増えていき、どんどん大きな広がりになっていくと。初めから大きなことは無理ですからね。

今回は本当に貴重なすばらしいお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。

―両会長、今回はどうもありがとうございました。

聞き手／高山市広報 中島 芳彦

※なお、紙面の都合上、内容を一部省略し編集しています。